

事例番号 096 住民出資のむらおこし(京都府南丹市・旧美山町地区)

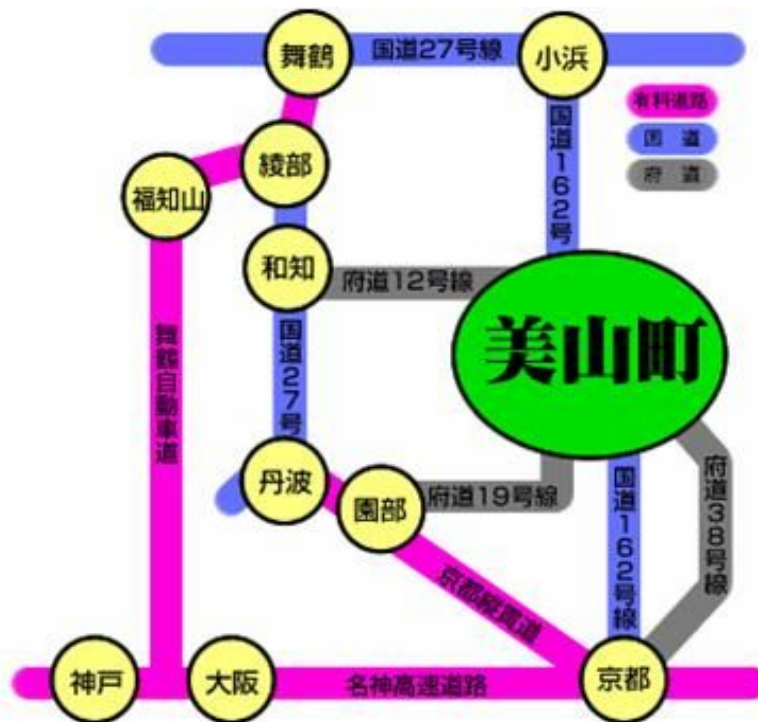
1. 背景

南丹市美山町地区(旧美山町)は京都府のほぼ中央に位置する人口約 5,000 人のまちである。周囲を 800~900 メートル級の連山に囲まれ、まちの中を由良川の清冽な水が流れ、由良川沿いに点在する集落には約 150 棟の茅葺き民家が残る。美山町地区はこのような典型的な農村風景を持つまちであるが、特に北集落は自然と茅葺き民家とが調和する日本の農村の原風景ともいべき風景を持ち、1993(平成 5)年に文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている(同地区には茅葺き民家が最も多く残っている)。2006(平成 18)年1月1日に 4 町が合併して南丹市が誕生し、美山町はその一部となった。

美山町地区は京都駅からはバスを乗り換えて約 2 時間 30 分の位置にあり、交通アクセスはよくない。人口は 1955(昭和 30)年からの 50 年間でほぼ半減し、高齢化率も 32%と著しく高い。しかし、同地区は早くから都市農村交流に取り組んできたことから、マイカーや観光バスで年間 72 万人(うち北集落は 25 万人)の観光客が訪れている。



南丹市の位置 (資料:南丹市ホームページ資料を加工)



京都市内からは、、、

京都市内

→国道162号線→美山町(約80分)

→国道9号線→国道27号線→美山町(約80分)

→京都縦貫道自動車道(園部IC)→府道園部平屋線→美山町(約60分)

京阪神方面からは、、、

※所要時間 舞鶴自動車道丹南篠山口から約1時間

近畿自動車道→吹田G.C.T中国自動車道→吉川JCT舞鶴自動車道→丹南篠山口左折→国道372号線篠山町左折→

国道173号線瑞穂町右折→国道9号線丹波町 左折→国道27号線和知町 升谷 右折→府道綾部宮島線美山町

京都駅から

JR山陰本線(特急55分・普通90分)→和知町駅下車→町営バス(38分)→美山町

JRバス(90分)→周山下車→町営バス(55分)→美山町

美山町へのアクセス (資料:美山町商工会ホームページ)

2. 目標

住民の主体的・継続的な活動による村おこし、農山村の景観保全、住民の生活維持を最大の目標としている。具体的には、都市農村交流・グリーンツーリズムの実践を通じて、農産物や加工品の販売促進、茅葺き民家の維持管理と農村景観の保全、住民の生活支援、U・Iターンの促進等を図り、それらを通じた総合的な地域の活性化を目指す。

3. 取り組みの体制

住民主体の都市農村交流から始まった事業展開を南丹市が支援する形をとっている。中心となる組織は「美山ふるさと株式会社」(第3セクター)、「有限会社かやぶきの里」(北集落の住民出資による観光事業・コミュニティビジネスの会社)、「かやぶきの里保存会」、「かやぶきの里・美山と交流する会」などである。



茅葺きの家並み（写真提供:南丹市）

4. 具体策

(1) 「かやぶきの里・美山と交流する会」

1993(平成 5)年に京阪神在住者を中心に、美山町地区のファンで同地区を応援する都市居住者が「かやぶきの里・美山と交流する会」を設立した。メンバーは約 100 人であり、集まった年会費の半額は美山町に寄付されてきた。多いときには年間約 100 万円に達したこともあり、地区内の茅葺き民家の保存基金として役立っている。

(2) 「かやぶきの里保存会」

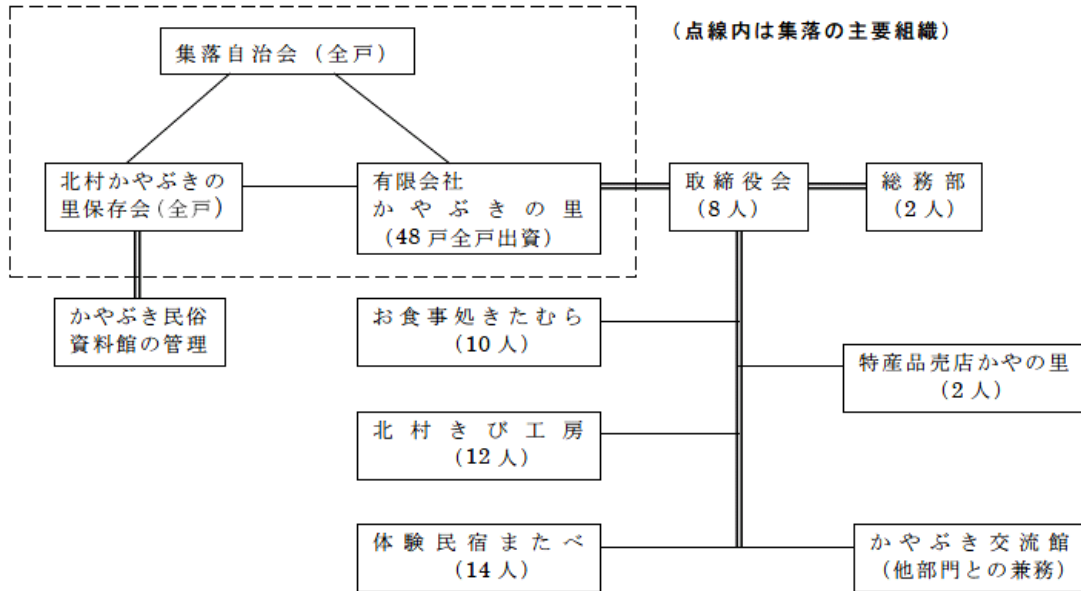
北集落では重要伝統的建造物に指定されている茅葺き民家を維持管理していくため、自治会とは別に集落内の全戸が参加する「かやぶきの里保存会」を設立している。保存会では茅葺き屋根を維持するために、休耕田への茅の植付け・収穫、茅の保存、茅葺き職人後継者の育成(U・Iターンの若者の地域への定着)などを行っている。また、全国レベルでの茅の提供者、茅葺き民家オーナーのネットワークづくりも実現した。保存会では、かやぶき民俗資料館の運営も行っている。

(3) 「有限会社かやぶきの里」

保存会とは別に、北集落では住民全員出資で「有限会社かやぶきの里」を 2002 年に設立した。同社は観光関連事業の主体となっており、お食事処きたむら、特産品売店かやの里、体験施設北村きび工房(昔ながらの菓子、餅類の加工販売)、体験民宿またべ、茅葺き交流館の運営等を行っている。有限会社かやぶきの里を中心とする組織図は次図のとおりである。

有限会社かやぶきの里を中心とする組織図

(資料: 京都府立大学・宮崎武教授『広がるグリーンツーリズムと都市農山漁村の活性化』
近畿農政局ホームページ掲載資料より抜粋)



北集落の消火訓練の様子(写真提供: 南丹市)

(4) 観光と農林業の連携事業の展開

地域再生に関する事業を中心的に推進する組織として、1992(平成4)年に第3セクター「美山ふるさと株式会社」が設立された。当初は土地・住宅の斡旋等を主な事業としていたが、1992年、2000年の定款変更により特産販売部門が加わり、2001(平成13)年に新生「美山ふるさと株式会社」になった(資本金9,405万円)。事業内容は、特産品販売(牛乳の製造販売、漬物の製造販売、町内特産品の販売)と不動産事業(土地、建物斡旋)とから成る。観光客を対象に地域の農産物や加工品、特産品をPRするとともに、町内の直販場で販売事業等を行っている。また、U・Iターン移住者に対する空き家の斡旋や不動産の仲介、住宅建築事業も行っている。

5. 特徴的手法

次の段階を踏んで着実に成果をあげている地域全体の取り組みが特徴的である。

- 第1期 農林業振興を中心とした村おこし
- 第2期 都市農村交流(都市部応援団の結成と観光客誘致)による村おこし
- 第3期 美山型グリーンツーリズム(観光と農林業の振興の相乗)を展開する村おこし
- 第4期 住民主導の村おこし(住民出資の観光事業会社の設立等)

事業効果に関して、都市農村交流がスタートしたころの1989(平成元年)年と1998(平成10)年、2003(平成15)年とを比較した資料が「近畿ふるさとネット・都市と農山漁村の共生・対流シンポジウム2005 in 近畿」で下の表のように報告されている。

	1989年(平成元年)	1998年(平成10年)	2003年(平成15年)
地区内主要事業者の売上高	2億5,000万円	10億6,500万円	21億9,300万円
雇用人数	36人	109人	163人
備考	※芦生山の家、芦生なめこ生産組合、美山町自然文化村の3社の合計値。	※左記3社に加え、新たに開設された主要な事業所の合計値。	

一方、住民が地域に住み続けることをバックアップするため、配食サービスや住民の移送サービスなどのコミュニティビジネスを町内23のボランティアグループ(町民の1割を超える560人の登録ボランティア)と連携しながら展開する仕組みが構築されていることも大きな特徴である。

6. 課題

増えすぎた観光客による住民のプライバシー侵害やゴミの問題などが年々深刻化している。

(参考・引用文献)

「近畿ふるさとネット・都市と農山漁村の共生・対流シンポジウム 2005 in 近畿」議事録

旧美山町ホームページ、美山町商工会ホームページ

美山ふるさと株式会社ホームページ